

<レポート>

『知の市場』『韓国学 a、韓国歴史と文化の理解』の弘益人間思想



金 得永(東京韓国学校校長、Ph. D.)

1. お茶の水女子大学『知の市場』『韓国学 a』の概要

2015年7月18日、韓国の生涯教育を研究している大学教授らが御茶の水女子大学の知の市場センターを訪問したのに合わせ、同センター長の増田優教授が直接本校を訪ねられた。そして、直接韓国から来校した20人の教授に知の市場に関して説明をされた。

その後、増田教授から私たちの学校で韓国の歴史と文化講座を共同で主催することを提案され、2016年後半から講座を始めることになった。知の市場センター、特に増田教授から数回の事前準備協議会、韓国学シラバスのホームページの校正、受講申請期間を延長していただくなど、ご迷惑をかけつつ、多くの受講生が申請できるよう便宜をはかっていた。こうして、御茶の水女子大学の「知の市場」(全国16カ所)の会場のひとつとして、東京韓国学校でも開かれることになった。

日本で韓国学講座を開設できたきっかけは、お茶の水女子大学 増田教授の指導と助言によるものであると言っても過言ではない。また、本校の献身的で自発的な教師らの協力と参加、在日同胞の学者や専門家らの参加によって、集団的な知の場を設けることができた。毎週水曜日18時30分から20時30分まで、2時間ずつ、2016年10月19日から2017年2月1日までに、計15回講義の韓国学講座ができた。

『韓国学a』における「韓国の歴史と文化の理解」の目標は、韓国の歴史と文化を分かち合うプロジェクト」として「韓国の歴史と文化の理解」と題する無料公開講座を開設する。本校教員を中心とした講師が講義を担当し、日本では学ぶ機会の少ない韓国の歴史と文化に対する正しい認識と理解を深めていくことを目的として設定した。

講座を構成する15の講義のテーマは、「古朝鮮の歴史と文化の理解」(東京韓国学校校長、教育学博士)、「韓国教育歴史の中の弘益人間の思想」(同前)、「三国時代の歴史」(諸恵珍、東京韓国学校教師)、「高麗の興亡から朝鮮へ」(趙亨道、東京韓国学校教師)、「韓国の詩文学概観」(金一男、時調の会理事、世界伝統詩人協会韓国本部海外総務)、「韓国音楽の遺産」(裊恩卿、東京韓国学校教師)、「韓民族の科学技術史」(洪政國、在日韓国科学技術者協会顧問、前東京大学特任教授)、「朝鮮の美術」(ユンゴウン、東京

韓国学校教師)、「韓国舞踊の歴史と基本思想及び動作」(朴景蘭(パク・キョンラン)、東京韓国学校教師)、「在日」の暮らしや意識の変化と日本の中の現代韓国大衆文化」(崔美貴、東京韓国学校教師)、「正しい歴史認識、国の本質」(宋錫鍾、千葉韓国教育院院長)、「朝鮮近代文学植民地留学生 尹東柱」(申玉先、東京韓国学校教師)、「韓流と日韓関係の変化」(申景浩、国士舘大学21世紀アジア学部 教授)、「韓日二つの祖国」(河正雄、光州市立美術館名誉館長、秀林文化財団理事長)で構成されることになった。受講生は、日本人13名、在日同胞人3名、本教職員人5名、聴講生3人の計20名前後が通常受講した。

2. Chinoichiba「知の市場」の理念と運営

「知の市場(FMW: Free Market of・by・for Wisdom)」は、「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して、人々が自己研鑽と自己実現のために生涯学習の広場である。そして理念と基本方針を共有しつつ協働する受講者、講師、友の会、開講機関、連携機関、連携学会、協力者・協力機関、有志学生実行委員会、知の市場事務局などが自立的で解放的な協力関係を形成しながら、それぞれの立場を越えて自律的な判断により自ら活動する場(Voluntary Open Network Multiversity)である。¹

「知の市場」は、大きな時代の潮流を先導し、成人教育と学生や院生に対する学校教育とを切れ目なく連結し、さらにプロ人材の育成と高度な生涯教育を相互に補完しあうものとして接合することを目指している。加えて、社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員参加の中で各々の役割を果たして教育を支え、そして教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく、そうした真の教育立国を探求している。それによって津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会の構築に向かって、道を切り開いていくことが知の市場の課題である。

「知の市場」は、総合的な学習機会の提供、実践的な学習機会の提供、十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価という4つの教育の基本方針の下で活動する。そして開講機関が主催し連携機関の協力を得て知の市場とともに開講する共催講座と、共催講座での経験などを活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって開講機関が「知の市場」の理念を共有しながら独自に開講する関連講座で構成されている。

「知の市場」は、理念を構築し人の輪を形成し始めた黎明期(～2003年度)を経て、化学生物総合管理の再教育講座としてお茶の水女子大学を拠点に第I期(2004-2008年度)の活動を開始し、開講機関や連携機関などとの協力関係を拡充しつつ講師や受講者との人の輪を拡大して全国から大きな反響を得た。そして政府や大学からの資金提供などを求めず自主的かつ自発的な教育活動であることを鮮明に掲げた第II期(2009-2012年度)には、視野を拡大しながら全国に開講拠点を拡大しつつ自主的な活動として知の市場を新展開し

¹ 知の市場 <http://chinoichiba.org/index.html>(2017.4.1)

た。これらの実績を踏まえながら、第Ⅲ期 (2013-2014 年度) は活動をさらに進化させることによって自立的かつ自律的な活動としての知の市場を確立した。²

3. 弘益人間の思想

弘益人間の思想は、檀君朝鮮の建国理念である。韓国の歴史と教育の根本思想である。自然と人間の生成、成長、生育の原理を明らかにした宇宙思想なので全人類が共に探求する価値がある。韓国学校が「知の市場」に参画することになったときに、一番に講座にしたかったことは、韓国の建国理念であり教育理念である「弘益人間」についてである。このことがあるからこそ、私たちも「知の市場」に参画し、独自の講座テーマを設定することができるのである。

教育思想は、各時代の生活様式や考え方にあらわれ、歴史的にどのような人間像が望ましいかを示唆することもある。教育思想の歴史的展開を見ると、時系列性に拘る傾向と空間の拡張性を重視する二つの潮流がある。神教文化により儒教仏教文化圏に再びキリスト教文化と混在した文化圏に移動しつつ、韓民族の原型文化を失ったまま生活圏が拡大し、進化論的資本主義の合理性に変化してきた。

韓国の弘益人間の理念は、儒教・仏教・東学・基督教などの思想の流入過程で形骸化してきたが、諸外国との関係の中で比較優位国の文化や思想を盲目的に受け入れる制度の導入が、弘益人間の思想と独特な民族文化精神にどのように影響を及ぼしてきたのか、時代別教育思想を分析しながら、現在の文明の対案を模索してみようと思う。

1) 古代韓国の理想主義とアジア理想主義のルート

弘益人間のような人類の理想主義教育思想を理解するためには、『三国遺事』、『天符経』、『三一神誥』、『参侏戒経』、『桓檀古記』、同様に古代韓国の重要古典思想を参照し、研究しなければならない。この資料は韓国とアジアの理想主義を研究する人々にとって非常に重要である。

われらは Talmud と聖書を知らないと既成キリスト教を理解することができず、コーランなしにイスラム教理想主義を理解することができない。このようにアジア理想主義は、韓国の古典思想抜きには理解することができない。しかし、この研究に着手した学者たちはほとんどなく、むしろ専門家たちは日本と中国の植民地の遺産に頼り、他の理想主義運動の一神教的な理念に傾倒してきた。

イホンボム博士は、アジアの理想主義に大きな影響を与えた古代韓国の理想主義の歴史と思想を研究せずして、アジア理想主義現象を理解することは難しいと強調している。また、より大きな文明と幸福、繁栄、そして平和な国際社会の理想と目標を達成するために、価値あるアジア人の知恵を発揮すれば、より緊密な相互協力が可能になると見ている。³

バイカル湖を含むロシア東部のシベリアは、かつては常に古代韓国朝鮮の一部であった。この地域は、古代の韓国ツングース人の文化、言語、宗教的伝統がいまも残っている。20

² 総合社会教育研究会編『知の市場』(東京:丸善プラネット、2016)、pp. 2-20。

³ Hong Beom Rhee, *ASIAN MILLENARIANISM*(N. Y. :CAMBRIA Press, 2007), pp. 38-40。

世紀にロシアの画家カンディンスキーはシベリアのコミ地域を訪問した。「コミ」という地名は、韓国語「くま」から来ているようだ。彼が発見した空と山と自然を崇拝する慣習は現代にも残っている宗教的伝統だが、その崇拝は、古代韓国の理想主義の伝統と関連がある。シベリアにはプリアトゥ族が多く、彼らは韓国を故郷の国と呼ぶ。これらの祖先は韓国のツングース族であった。ロシアの歴史家のクルリュチェフスキーは、ロシアの言語で書かれた彼の本「ロシア人の歴史」で、東北地域のツングース族が大きくロシアの政治文化に及ぼした巨大な影響を詳細に探索した。ロシア語チャルの語源は「カーン」で「カーン」は韓国語で「ハン」に由来し、それは、神、天、最高権力者という意味である。

古代アジアのアジア文明の中心は東北地域であった。最も賢明で強力な国家が古代韓国のツングース文明の姿で、北東アジアに現れた桓国・倍達・古朝鮮帝国であったが、文明は、おそらく9000年以前に開始され、ツングース族が古代朝鮮を立てた。

古代アジアの韓国人たちは、地球上で高い道徳性と強力な民権と軍事力を持った最も強力な理想主義国家を作ったと、イホンボムは主張している。1980年代半ばに、神崇拝と関連する古代アジアの文化遺物が、古代朝鮮韓国の一部であった中国遼寧地方で出土した。古代四大文明のみを文明の基調にしている学界は、古代韓国の理想主義文明の発見の観点から再検討するべきである。

2) 弘益人間の思想

(1) 弘益人間の由来

弘益人間という言葉は、『三國遺事』古朝鮮条と『帝王韻紀』前朝鮮紀で、古朝鮮の建国過程を伝える内容の中に出てくる。『三國遺事』古朝鮮条では「古記にいわれた。その昔、桓因の息子の中に桓雄があったが、たびたび天下に意を見出して、人間世界に降りて行くことを望んだ。桓因が息子の意図を知っているサムウィ三危山と太白山を見下ろすと、弘益人間だけだと判断した。桓雄は天符と印を携えて五事⁴を主管し、世に神教⁵の真理を広めて人々を教え諭し(在世理化)、広く人々に益をもたらす(弘益人間⁶)、神市に都を定め(立都神市)、国の名を倍達⁷とした(國稱倍達)と伝える。これによれば、弘益人間とは桓因が桓雄を人間世界に送りながら提示した人間の指針であった。『帝王韻紀』では、桓因が桓雄に三危太白に降臨し弘益人間ができるかと、その意志を尋ね、そのような指示に応じて桓雄が地上に降りてきたものとなっている。

文献記録では、弘益人間は天神の桓因が人間世界に対して持っていた理想とされている。しかし、実際には桓国から続いた倍達と古朝鮮の建国に参加した遊牧民の九夷族の国家理念とされる。遊牧社会と農耕社会が共存しながら遊牧民の天孫族は騎馬民族の軍事力、天地人31ロゴスで熊族、豪族などの九夷部族を統合した。これは、古朝鮮建国勢力である青

⁴ 五事:牛加は農事を担当し(主穀)、馬加は王命を担当し(主命)、狗加は刑罰を担当し(主刑)、猪加は疾病の治療を担当し(主病)、羊加は善悪の判断を受け持った(主善悪)。(『太白逸史』「桓国本記」)。

⁵ 神教:「神教」とは「以神設教」、「以神施教」の意味で、すなわち三神上帝様の教えを以て世を治める、という意味である。人類の始原宗教で、儒教、仏教、道教、キリスト教などのすべての宗教はここから枝分かれしていった。三神上帝様に祭祀を挙げる天祭は、神教文化の代表的な儀式であった。

⁶ 弘益人間:「広く人々に益をもたらす」という意味で、初代桓雄天王の建国理念。

⁷ 倍達:「明るい地」という意味。韓民族を倍達民族、倍達の同胞と言うのは、倍達という国が実在し、倍達の建国とともに韓民族の基礎が形成されたからである。

銅器を使う韓民族が周辺の新石器時代の部族を広く支配するところに示された概念とみられる。中央アジアで桓雄が住み良いモンゴルと満州地域に移動して白頭山の下に新しい神市を建設し、農耕社会に必要な風伯・雲師・雨師という管理を率いて主穀、主命、主病、主刑、主善悪など、人間世界の360余事を管掌した。

その際、弘益人間在生理化思想で生活と政治教育をしたものである。特に神市で蘇塗(ソト)という祭天場所で「天符經」を読んで覚えて平和な弘益世界を実現したものと判断される。九夷族の連合である檀君朝鮮を管理するのに必要な人類の精神文化の原型である「天符經」を覚え、講説しながら、神と自然の法則を実現する遊牧移動社会から、種族を安定的な農耕社会への移行に活用していたものと推定される。

(2) 弘益人間の概念

弘益人間はしばしば「広く人間の利となるようにせよ」と解釈されるが、字義に忠実に解釈すれば「他人を大きく助けなさい」となるだろう。それは人間のすべての価値に優先される思想である。弘益人間は「人間」を「公の利に資する」ような公共性構造になっている。「弘」は、「広く」よりも「大幅に」の意味が優先である。「広く」への「弘」は偏重されて独占され、不平等なものに反対されている意味であるが、「大きく」への「弘」は、規模が天地を覆うほどに大きな意味を抱いている。「益」は、「利する」、または「助ける」の意味であり、他人に祝福と徳を与える利他主義とボランティアの意味も含んでいる。

元暁の「大勝起信論疏」で弘益人間と同じような「弘益衆生」という用語が出てくることなどに注目した学者もいる。しかし、弘益人間は仏教が出る前の思想で檀君神話に本来含まれていた思想と観点を圧縮的に反映した思想でなければならない。檀君神話は長い間語り継がれてくるが、漢字が流入された後、採録される過程を経たが、口伝の檀君神話の中に含まれている建国目的や指向値に対応する内容が「弘益人間」で翻訳されたと推定される。檀君神話を漢文で最初に翻訳した新羅崔致遠先生は、象形文字を天符經の趣旨と視点を正確に伝えること、適切な漢字語を見つけることに努力した。檀君神話は人間中心思想で一貫しており、弘益の対象を人間だけではなく、すべての生命と人間の世界にまで拡張された概念である。

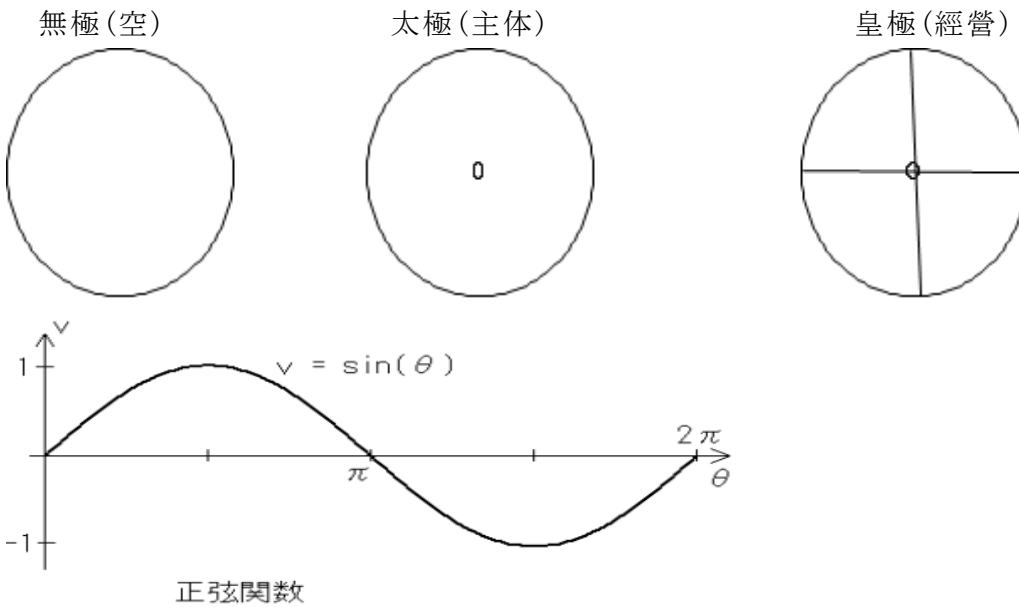
弘益人間が追求する価値については、宇宙と自然のロゴスにヒューマニストや人間尊重など仁義禮智信のような愛・奉仕・正義・共同体・平和など多くの点で説明されている。しかし、その重要な三つはつぎのようだ。①国家と権力・市場・宗教・教育と科学技術などのすべての文明のデバイスは、人間社会のために分割するという人本主義的思想、②人間と自然のためになる自利利他的生命観、③天地人のすべて神と一緒に超宗教的悟りのる知恵社会思想である。弘益人間は天地人合一の精神で、人間の世界の幸せと平和を志向する理想主義的な理念である。そして、一人一人にとってコミュニティや近所の人のために代価なしに奉仕する積極的倫理を提示する。

1945年政府樹立後、「教育法」が正式に制定された(1949.12)。「教育法」第1条では、「教育は弘益人間の理念のもと、すべての国民にとって人格を完成して自主的な生活能力と公民としての資質を育てて民主国家の発展に役立つし、人類共栄の理想実現に寄与

することにするを目的とする」と規定している。「文教概観」(1958)では、弘益人間を教育理念に採用された理由として、「弘益人間は、韓国の建国理念はあるが、決して偏狭で孤陋な民族主義理念の表現ではなく、人類共栄という意味である、それゆえ、“民主主義の基本精神を満たしている理念”として、「私たちの民族精神の 精髓」でありながら、キリスト教の慈善精神、儒教の仁、そして仏教の慈悲心とも相通ずるすべての人類の理想であることに通じる普遍性を持っていることを指摘している。

教育理念としての弘益人間は教育が育てること人間像を提示したものでありながら、教育が追求すべき価値について規定したものである。いわば弘益人間することができる徳と能力、力量を持った人材を教育が育てなければならないという意味と、教育は権力やお金のような価値ではなく、自分に役立てて自分と他人を助け生かし、人間のために奉仕する活動でなければならないという点を規定しているのである。

(3) 弘益人間 解析の枠組み



自己		
自利害他	自利利他 (弘益人間)	他者
自害害他	自害利他	

3) 天符經の中の弘益人間のロゴス Logos



天符經は東西の最高の数理哲学書である。韓民族の先祖が作ったこの經典は、0-10までの数を介して、宇宙と自然界の真理と人間の生命の原理を説いたロゴスである。

天符經は桓国時代から語り継がれてきて倍達の初代桓雄天王の命令に神誌赫徳が当時象形文字の鹿圖文に記録した。古朝鮮時代に至って神誌が篆書に天符經を石に刻んで太白山に立てた。新羅時代崔致遠がこの文字を見て漢文で翻訳して妙香山石壁に刻んだ。1917年雲樵桂延壽が発見して解釈して今に伝えながら、多くの解釈と議論がされているのが実情である。

天符經の漢字内容からみれば、これは、空の天、符籙の符、經典の經である。空のお守り、すなわち真理を盛り込んだ經典という意味である。ここで空とは天と地の人の理が統合されたものでの空である。天符經はすべて81字になっている。縦横9文字ずつ書かれているが、それなら四角としても丸にも、また三角でもはいる。だから81が圓○、方□、角△の中に入る。これを絵に描いてみると次の通りである。この圓○、方□、角△のは、それぞれ天、地、人を象徴である。

天符經が高麗時代の農隱集で発見された以上、桓檀古記に導入された秘典がすべて虚構とすることはできない。またこの記事は、弘益人間と在世理化など独創的な思想を盛り込んでいるので、その思想を生んだ論理があったことを知ることができる。天符經は数理システムとして万物の生成を表現した独自の内容を示すので、多くの研究が必要である。

上古時代の精神文明の痕跡を探して考古学文献的ビジョンを十分に活用し、現代人類学の成果まで導入して立体的自己確立の努力が必要である。

これからは東アジアのルネッサンスを作る時代である。また、哲学的アプローチとして、形而上学の源を模索することも必要である。併せて、民族自尊思想を批判する人もいるが、民族のルーツの重要性は、永遠のものである。多方面からの源を探して、これを継承する努力は当然大切なものであり、批判の対象になることはないだろう。

桓国時から伝来した81字天符經が掲載された歴史書『桓檀古記』は非常に膨大な内容の本である。『桓檀古記』は雲樵桂延壽先生が執筆した。昔から伝わる歴史書を集め、20世紀の初めに執筆した。その中に天符經が含まれている。歴史書『桓檀古記』に「天符經は天帝桓国から口伝の宇宙黙示録である。新羅時代崔致遠がかつて碑に刻まれた文句を見て世の中に伝えたのだ。その内容は次のとおりである。

上經

一始無始一。一つは、天地万物始まった根本で、無ではじまった。析三極無盡本。一つに分かれて天地人三極として作用しても、その根本は尽きることがないと。天一地一人一三。天のもと精神は創造運動の根になって最初にされて、地の源の精神は、生命の生成運動を実現するので第二になって、人の源の精神は、天地の歴史の夢と理想を実現して第三になるので、一積十鉅无匱化三。一つは生長して開くまで開かれるが限りない調和として 3 数の図をなす。

天符經中經

天二三地二三人二三。天も陰陽の運動 3 数に戻り、地も陰陽の運動 3 数に循環して、人も陰陽の運動 3 数として生きて行く大三合六生七八九。天地人大きい 3 数が合わせ 6 になるので、生長性 7, 8, 9 を生ずる。

運三四成環五七- 天地万物 3 と 4 数の変化一言運行して 5 と 7 数の変化の原理循環運動だ。

天符經下經

一妙衍萬往萬來。一つは、幽玄に循環運動を繰り返して用變不動本。調和作用無限無窮その根本は変わらない。本心本太陽昂明- 根本は心だから、太陽の根本置いて、心の大光明は明るく人中天地一。人は天地中心尊いでいるから一終無終一。一つは、天地万物の終わりを結ぶ根本であるが、無に戻り一つである。

4. 弘益人間の思想から見る現代教育の課題と展望

(4-1) 韓国史時期別の遊牧農耕文化の分析

遊牧文化(共有、分権、変化)		農耕文化 (所有、階級、順應)
古朝鮮 夫餘 高句麗 渤海	三國時代 高麗、百濟、 新羅	
大韓民国 統一韓国	高麗、 朝鮮	

今からでも宇宙と人間の調和と覚醒を通じた知恵を、天符經の中に見出し、弘益人間世界をつくるために努力するべきだ。弘益人間文化、つまり光明文化と共有経済の文化を教育と生活に統合した時期は、倍達や古朝鮮時代だった。

産業化と民主化の成功により、民族の歴史に対する歴史主権を回復しようとする弘益人間の精神を実現しようとする新たな動きも出てきているのが実情である。また、1980 年代以降、中国の万里の長城以北の内モンゴル自治区と遼河地域の紅山文化、遼河文明から出てきた女神墓、祭壇、積石塚、玉器文化、琵琶型銅劍 夏家店 上層文化は、中国中原の文化と異なった古朝鮮、高句麗などの北方民族の文化様式であることを知ることができる。

韓民族は、長久な歳月の間、古代史と近現代史が歪み、縮小、消滅してきた。(4-1) 韓国史時期別の遊牧農耕文化の分析のように、三国時代以降 外國侵掠と先進国の文化や文物の急速な流入により宗教、産業、教育制度などが変化するようになった。

遊牧騎馬文化から農耕文化に移転され、民族の固有理念である光明理世、弘益人間の理念は、儒教と性理学的忠孝思想、西欧の合理性の論理に埋もれ形体だけ残っていた。その間、韓民族は、ほぼ自分の歴史や魂を忘れて生き残ることを中心にして教育されたようだ。

その教育は時代の支配集団の論理と理想に応じて変化してきた。農耕社会と産業社会、情報社会の教育は、試験と競争、階層上昇のツールとして作用してきた。それは、目的と手段の合理性に作られた教育システムである。個人と集団の知恵よりも知識の暗記、競争教育と序列中心の学力社会になってしまった。

人間の知識、行動そして態度の変化として認識されて認知行動の変化が人間教育の中心となっていた。それで宇宙と自然の世界と生命の根源的理解をせずに、単純な知識中心が人間教育になった。そして目に見えない教育、すなわち非認知領域の感性と超認知などは無知されてきた。

しかし、エイアイ時代になってから地球と宇宙の生存を求める理念を探している。まさに生命、平和、共存の光明の論理を新たに再発見している知恵の教育や努力が要求する。即ち これから空、宇宙の創造性と自然の生命性と人間の光明性を見つける弘益人間—弘益社会(世界)—弘益世界の教育が必要な時点である。

弘益人間の理念の実践は、天地人の宇宙の原理を理解し、人間理想の知恵を悟っているべきことである。これからデジタル遊牧民 Digital Nomad の時代が開かれ、また隠れた弘益 DNA が花を咲かせ始める。これからは弘益人間の理念に相応しい教育歴史と文化教育システム、デジタル遊牧時代にも相応しい弘益民主社会システムがほしいのである。

人間と自然と一緒に暮らす三一思想、全ての人間が歴史と文化の主人公として生きる「光明理世」、世界や全ての人類と国家と一緒に成長発展する「弘益世界」を作る挑戦が必要である。弘益人間の理念は、全人類の未来の平和のための理念に拡大する価値がある。日本の「知の市場」の理念も同様に公共的善を持って隣国の歴史と文化まで共有し、新しい価値を創造しようとする。また、大学や学校の生涯学習活動を通じて光明の DNA を共有し、努力する新たな道を開きはじめている。

筆者が「知の市場」に韓国学校を参画させた動機のひとつは、「韓国人と日本人は、成長期を一緒に過ごした双子の兄弟のようだ。東アジアの政治的将来は、両国が古代から積み重ねてきた繋がりを友好的に再発見することにかかっている」と言った J. ダイヤモンドの名言を実践したかったこともある。国連の持続可能な世界を作るのにも弘益人間の理念が通用し、世界平和のための活動にも必要である。これから韓国と日本の歴史や文化、教育、スポーツの交流と協力が続くとき、この「弘益人間」の理念はそうした交流と活動を支えるは続けなければならない。

参考文献

- 『韓国の歴史と文化の理解』(金得永編, 東京韓国学校, 2017)。
『古朝鮮研究 上』(尹乃鉉、ソウル: 萬卷堂, 2015)。
『我が古代史』(尹乃鉉、知識産業社: ソウル、2003)。
『失われた上古史、取り戻した古朝鮮』(沈伯綱編、ソウル: 正しい歴史, 2014)。
檀君古記 <http://www.hwandangogi.or.kr/?c=hwandangogi/143/831> (2017.3. 31)。
『三國遺事』紀異篇, 第一 古朝鮮 (王儉朝鮮), 1281。
安耕田 譯, 『桓檀古記』(大田: 相生出版, 2013)。
韓基彦, 『韓国教育史』(ソウル: 博英社, 1963)。
孫仁鉄, 『韓国教育思想史』(ソウル: 載東文化社, 1964)。
吳天錫, 『韓国新教育史』(ソウル: 現代教育叢書出版社, 1964)。
韓国教育学会 韓国教育史研究会, 『韓国教育史』(ソウル: 教育出版社, 1972)。
韓国教育学会 韓国教育史研究会, 『韓国儒學思想と教育』(ソウル: 三一閣, 1976)。
金益洙, 『韓国忠孝思想と國民精神教育』(ソウル: 成均館, 1980)。
韓国教育学会韓国教育史研究会, 『韓国教育史研究の新方向』(ソウル: 集文堂, 1982)。
丁淳睦, 『朝鮮時代の教育名著巡禮』(ソウル: 培英社, 1986)。
[Naver 知識百科][教育思想] (韓国民族文化大百科、韓国学中央研究院)。
総合社会教育研究会編, 『知の市場』(東京: 丸善プラネット, 2016)、pp. 2-20。
<http://terms.naver.com/list.nhn?cid=44621&categoryId=44621>。(2017.3.31)。
Hong Beom Rhee, *ASIAN MILLENARIANISM*(N. Y.: CAMBRIA Press, 2007), pp. 38-40。
知の市場 <http://chinoichiba.org/index.html> (2017.3.31)。

金 得永 (きむ どうくよん)

1956年、大韓民国全羅南道新安郡生まれ。1979年光州教育大学卒業、1991年奈良教育大学大学院修了、1989-1995年檀国大学大学院修了、教育学博士(日本研究)取得。1992-2001年 檀国大学、中央大学、キョン園大学など非常勤講師、2001-2004年、日本の岐阜韓国教育院長教育部派遣勤務、2005-2006年、韓国教育部 韓日歴史共同研究委員会研究室長、2015年から東京韓国学校校長。全日本大学開放推進機構会員。

主要著書『日本生涯教育政策の変遷に関する研究』(博士学位請求論文、1995)；『日本の生涯学習まちづくり論』(2003)；『古代からの韓日交流の歴史』(2004)；『日本生涯学習都市フロンティア』(2006)；『人性千字』(2011)；『教師のためのソーシャルスキル』(2015)；『韓国の歴史と文化の理解』(2017)等。